

PATENT Attorney®

パテント・アトニー

春

VOL. 53

日本弁理士会広報誌

2009

●「PATENT ATTORNEY」は「弁理士」のことです。

◎ヒット商品はこうして生まれた
ヒット商品を支えた知的財産権
何度も書き直せる筆記具
「フリクションボール」

■特許調査もやま話 ■ジャーナリスト「ぼれ話」
●弁理士風土記(長岡) ●シリーズ特産品(江戸切子)
●知的財産権なんでもQ&A ●漫画「なすびくんのお仕事」
●特許庁からのお知らせ ●JPAA Information

知的財産権なんでもQ&A

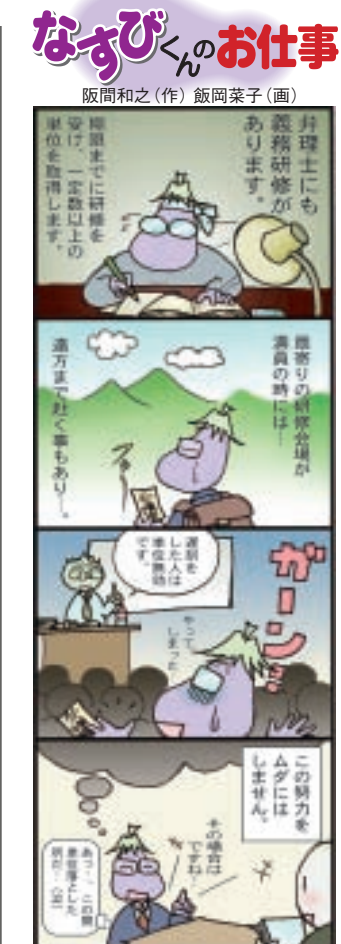
Q 約半年前に特許出願を行い、その発明を利用した製品を国内で製造・販売し始めましたが、最近、更なる拡販を狙って、欧州にも輸出する計画を立てています。欧州でも発明を独占するには、日本で特許権を取得すれば十分でしょうか？

●大阪府／地元メーカー経営者(54歳)

A 国内で得た特許権によって外国で発明を独占することは出来ないため、別途、欧州でも特許権を得なければなりません。また、国内出願と欧州での出願との間における発明の公知(自らの販売)等によって欧州における特許権の取得が阻害されないように、国内出願に基づく優先権と

呼ばれる権利を主張して、国内出願から1年以内に欧州へ出願する必要があります。なお、欧州特許庁へ出願する方法の他に、各国に出願する方法、国際出願と呼ばれる特殊な出願を経由する方法もあり、今後の他国での拡販計画・出願コスト等を考慮して、何れかの方法を採用すべきです。外国出願については、各地域の特許制度を理解した上で複雑な手続き等を行う必要がありますので、お近くの弁理士にご相談下さい。

◎このコーナーでは知的財産権に関する皆さまの質問にお答えします。質問事項を記載して、下記の住所にハガキまたはFAX.03-3519-2706で日本弁理士会 広報・支援・評価室「Q&A係」までお送りください。



特許庁からのお知らせ

知財で頑張る中小企業を応援します

＝全国を駆け回る特許庁産業財産権専門官＝

私たち産業財産権専門官は中小企業にお伺いし、特許関連支援策の内容や手続等についてわかりやすくご紹介します。そして制度や施策に関するご相談、特許庁に対するご意見・ご要望をお聴きします。また、中小企業の社内研修、経営者が集まる勉強会等の講師も無料でお引き受けいたします。企業訪問や講師派遣の要請については特許庁までお気軽にお問い合わせ下さい。

■ご連絡先
特許庁 普及支援課 産業財産権専門官
電話03-3581-1101 内線2340
E-mail: PA0661@jpo.go.jp



「弁理士Info」 「ヒット商品を支えた知的財産権」のご案内

知的財産権制度と弁理士の業務について、イラストや図を使ってわかりやすく解説したパンフレット「**弁理士Info**」及び季刊誌「**パテント・アトニー**」のヒット商品を支えた知的財産権と題して連載してきた内容を1冊にまとめた「**ヒット商品はこうして生まれた!**」等のパンフレットがあります。

一般の方には原則として無料で差し上げております。(送料は当会で負担します)
ご希望の方は、下記ご連絡先までお問合せ下さい。

◆連絡先 広報・支援・評価室◆
ご希望のパンフレット名と部数、ご送付先、お電話番号を明記の上、下記までお申込ください。
FAX: 03-3519-2706
mail: panf@jpaa.or.jp



PATENT ATTORNEY [パテント・アトニー]
●平成21年3月19日発行 第53号 ●無断転載禁止 ●編集/日本弁理士会広報センター ●発行/日本弁理士会
●〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-4-2 ●電話 03-3581-1211 (代) ●FAX 03-3581-9188

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

PRINTED WITH
SOY INK™



京都(桜堤)

江戸切子とは、江戸時代末期に江戸で始まったカットガラス工法のガラス工芸・細工のことをいいます。

江戸切子は、天保5年(1834年)に加賀屋久兵衛が、江戸大伝馬町で金剛砂を用いてガラスを彫刻し、模様を施したことが始まりと伝えられています。そして、江戸切子は江戸庶民の手によって発展していきましたが、明治初期には政府による殖産興業政策の一環として、品川硝子製造所が開設され、ヨーロッパの新しい技法が導入されました。更に明治15年には、英人技師エマヌエル・ホープトマンにより当時最先端の技術が伝えられ、江戸時代の切子の伝統に近代工業の要素を取り入れた江戸切子の近代的技法が確立されました。

このように江戸切子は、新しい技法を取り入れつつもその伝統は途絶える事が無く、また文様や用途も身近な庶民の暮らしとともに発展していったことから、「庶民の育てた文化」ともいわれています。このような江戸切子は、カットは深く鮮明で正確であり、仕上がりにはつきりとした華やかさがある点に特徴があります。



このコーナーに掲載御希望の方は、“特産品”のプロフィール・連絡先をFAX:03-3519-2706までお送りください。

「米百俵」の教え
米百俵の配分を迫る困窮を極めた藩士たちを前に、長岡藩の大参事小林虎三郎は「食べてしまえばあっという間だが、売ったお金で学校を建て、子供達を教育していけば、いずれ百万俵の価値となろう。その日暮らしでは街は立ち直れない」と論じ、長岡藩は、この換金で町民・農民の子供も入学できる学校を創りました。「人創りこそ国創り」というこの米百俵の教えは、その後の長岡の発展に寄与しました。

長岡市は、新潟県の中央に位置し、信濃川が流れる豊かな地で、近世では徳川譜代越後長岡藩の城下町として栄えました。

しかし、長岡藩は7万石ながらも幕末維新の動乱では、中立の道を探りつつも、後世の人々にその評価を委ねて明治新政府との戊辰戦争に突入して敗北し、町の殆どが消失しました。この維新困窮の折、支藩三根山藩から見舞いの米百俵が届けられたときの逸話が「米百俵の教え」です。

「常在戦場」「義の心を貫く戊辰戦争」「米百俵の教え」これら長岡精神は、連合艦隊司令長官山本五十六元帥も生み出了。

今日の長岡は、日本の復興を祈り散って行った人々の思いと、復興に苦勞された人々との思いが、二度の戦いを通じて長岡精神と共に織りなされてこそあるのです。

いつか私も悠久信濃川と米百俵の実りの一粒と言われるべく、弁理士一筋精進したいと思います。



吉井国際特許事務所
弁理士 吉井 雅栄



「米百俵の教え」像

都心、しかもオフィス
ワーク中心の生活では、雨の有り難みを感じる機会が少ない。むしろ外出に気が塞ぐ事の方が多い。書類は濡れるし、傘は荷物になる。
しかし、雨が降らなければ一大事だ。人間だけでなく、生物は水無しでは生きていくことができない。
水資源を確保するため、人は貯水池やダムをつくり干ばつに備えてきた。それでも首都圏や四国地方、九州地方ではしばしば水不足が発生し、取水制限が現在でも設けられる事がある。
昨年、四国で人工降雨実験が行われた。飛行機で上空から雲にドライアイス散布するなどして、水の粒子を人工的に作り出すもので、それらが衝突したりして粒子を大きくしながら落下し、地上に雪あるいは雨となって降り注ぐ。研究実施機関や背景は異なるものの、日本はこうした研究に40年代後半から取り組んできた。
雨乞いをしていた昔の人々も、研究者も同じ気持ちで空を見上げていたのではないかと想像してしまう。両者から強いお叱りを受けてしまうかもしれないけれど。(鈴木)

天気記号は●(雨)



ジャーナリスト
こぼれ話

1本のボールペンで書いて、消して、また書けるのが、パイロットの「フリクションボール」である。消すといつても、筆跡を消しゴムで削り取るのとは別のメカニズムで、消しカスがない。その秘密はフリクションインキにある。
一般的なゲルインキは水に顔料を混入する。フリクションインキは顔料の代わりに、発色剤、顕色剤、変色温度調整剤を封じ込めたマイクロカプセルが使われている。常温では発色剤と顕色剤が結合して筆跡を残す。この筆跡を、ペンのボディ後部のラバーでこすると、摩擦熱によって変色温度調整剤が働いて発色剤と顕色剤の結合が解かれ、インキの色が無色透明になる。インキ消去液など化学式の消去方法とも異なり、フリクションインキは何度でも書き直せる。
1975年に開発した、温度によって色に変化するメタモインキの改良を重ねて得たのがフリクションインキ

である。メタモインキは、変色温度の幅が狭く、マイクロカプセルもかなり大きかった。「インキとしての用途を広げるために、さまざまなニーズに対応した目標をたて、独自の材料や成分の開発も行い、らせん階段を登るように技術を蓄積してきました」とパイロットインキ商品開発部課長・千賀邦行さんは語る。
筆記具に用いるための改良では、マイクロカプセルを微小かつ均一にし、同時にカプセル膜の耐久性を高め、顔料の発色性を濃くするのが難しかったという。変色温度の幅を決める温度調節剤は、約20年にわたり多くの研究員によって、1000以上の化合物が評価されてきた。フリクションインキは、消えた状態を保つ変色温度の幅を約80度に広げること成功した。
インキの改良にめどがつき、2004年前半にボールペンの開発

が正式にスタート。ボール径0.7mmのフリクションボールは05年末にフランスで先行発売され、爆発的なヒットとなった。日本でも07年3月に発売するや、ビジネスシーンから勢いがつき、予想を上回る売れ行きに東京の大手有力店では品切れが1ヵ月続いたという。日本発売から1年間で4000万本(世界)を売り上げた。
07年9月に0.5mmの極細タイプを発売するに当たり、筆跡をより濃くするインキの改良もあった。さらに蛍光ペン、24色のカラーボールペンなど、フリクションシリーズが続々と登場している。
知的財産権について、同社知的財産室の増田敏夫さんは「営業活動を優位にするための権利取得と、営業活動に支障をきたさないよう他社権利の侵害防止を行うことが基本的な役割と考えます」と述べる。長年の研究成果がまつたフリクションボールも知的財産権でしっかり守られている。

特許調査
よもやま話

特許権の存続期間は出願日から20年で満了し、分割出願は遡及日から20年で満了します。それなのに、遡及日から19年を過ぎてから分割出願をし

たものがあります。例えば特願2007-113585の遡及日は昭和62年10月20日ですが、分割出願の提出日は平成19年4月23日(約19年6か月後)です。この分割出願は、もし出願と同時に権利化されたと仮定しても権利期間は約6か月しかありません。また、遡及日から18年が過ぎてから分割出願をした結果、特許が成立はしたものの、特許の登録時点で存続期間がわずかに5か月という特許権もあります(特許3906233)。(弁理士 鈴木利之)

ヒット商品は、こうして生まれた!

ヒット商品を
支えた
知的財産権

VOL. 53

何度も書き直せる筆記具
「フリクションボール」

商標登録 第4911337号
意匠登録 第1272587号
第1276099号

